

ケアラー支援の取り組みを、道内に広げていきます。

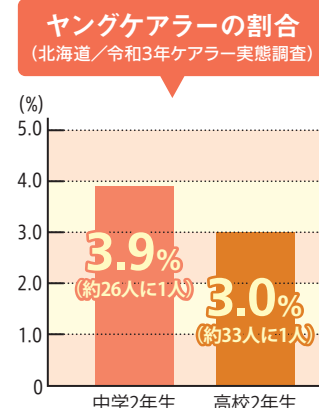
ケアラー(家族介護者)という言葉聞いたことがありませんか。道では、ケアラーを地域で支えるしくみづくりに取り組んでいます。

ケアラーとは

ケアラーとは、介護やお世話が必要とする家族や身近な人に、無償でケアを行う人のことです。道内に約26万8千人※いると推計されています。家族から頼りにされる一方で、誰にも悩みを相談する機会のないまま、社会から孤立していくことが心配されています。

ヤングケアラー

18歳未満のケアラーを指すヤングケアラーは、家庭内のデリケートな問題であることや、本人や家族に自覚がないといった理由から、支援が必要であっても表面化しにくい状況にあります。年齢や成長度に見合わない過度な責任や負担がかかることで、子どもの成長や学びに影響を及ぼすことのないよう、周囲が支援できる環境づくりが大切です。



道のケアラー支援の取り組み

- 認知度向上に向けた普及啓発**
・SNSの活用 ・ポスター、リーフレットの配布(予定) など
- ケアラーの早期発見や相談の場づくり**
・市町村職員への研修
・北海道ヤングケアラー相談サポートセンター開設(とし6月・江別市)
・ヤングケアラーコーディネーターを道内8カ所に配置 など
- ケアラー支援のための地域づくり**
・当事者交流のためのサロンの設置促進
・市町村へのアドバイザー派遣 など

道の取り組み

道ではケアラーに対する地域社会の理解を深め一人一人のケアラーが必要とする支援につなげられるよう、とし4月に北海道ケアラー支援条例を施行しました。道はこれに基づき、関係機関と連携しながら、道内のケアラー支援を進めています。

北海道ケアラー支援有識者会議議長にお話をうかがいました。「世帯まるごと支援」の考え方でケアラーのために役立ちたい。



北海道ケアラー支援有識者会議 議長 (北海道社会福祉協議会 ケアラー支援推進センター長) 中村 健治さん

本道のケアラーの実態は？

時代とともに世帯構成が縮小した今の社会で、昔の「家族介護力」を維持することはもはや困難といえます。ケアラーは、家族の世話をするために自分のことを我慢しがちで、人知れず悩みを抱えてしまう傾向があります。特に、18歳未満のヤングケアラーは、大人が担うようなケアの責任を引き受け、学業や進路選択に影響を受けることもあります。道の調査による、中学2年生の約26人に1人がヤングケアラーという結果(グラフ参照)は、クラスに1人の割合でヤングケアラーがいるという実態を表しています。

どのようなケアラー支援に取り組んでいるのでしょうか。

道のケアラー支援条例は、ケアラーの幸せな生き方をサポートするという理念に基づいた先進的な条例です。ケアを受ける人だけが主役ではなく、ケアをしているあなたも大切な人という認識に立ち、世帯をまるごと支援していけるよう、センターとしても取り組んでいきます。

私たちにできることは？

誰もが人生の中で、ケアをしたりされたりという経験をするはずで、道民の皆さん一人一人がケアラーについて理解を深め、周囲にケアラーがいたら、気づいて声をかけてあげてほしいと思います。



ケアラー支援推進センターウェブサイト

元気な道内企業 チャレンジを続ける企業は、北海道の活力です！

道内には、独自のアイデアや技術力を生かした新たなチャレンジで、国や道の表彰を受賞した企業があります。今回は「日本ものづくり大賞優秀賞」を受賞したシンセメック株式会社と、「北海道新技術・新製品開発賞奨励賞」を受賞した株式会社トリバスをご紹介します。今後順次、北海道庁広報Twitterで道内企業をご紹介します。



北海道庁広報 Twitter



蓄積した技術力で カボチャ乱切り装置を開発。

シンセメック株式会社(石狩市) 代表取締役会長 松本 英二さん

●どのような会社ですか？
1950年に創業した当社は、長年の精密機械部品加工で培った技術に、機械設計や電気制御をプラスし、さまざまな産業分野の省力化機器や計測機器、ロボット組み込み機器などを考案・設計しています。お客さまの思いを形にするため、自社一貫生産体制で、世界に1台しかない装置を作っています。

●新たなチャレンジのきっかけは？
受注生産を多く手がける一方、自社開発で約15年前から改良を重ねてきた製品が「カボチャ乱切り装置」です。カボチャの楕円形状を生かしたカットを実現するため、独自の円形刃物を開発。従来の手作業を自動機械化することで、1時間あたりカボチャ約250個を、材料ロスもほとんどなくカットすることができます。硬いカボチャを安全に処理できる

装置により、食品加工現場の問題を解決しました。国内外からの引き合いもあり、「こんな機械を待っていた」という声に手応えを感じています。
●経営者として今後の展望は？
当社の経営理念の一つは「変わらないことは最大のリスク」、つまり、変わり続けることでしか発展はないと考えています。新しい技術と価値を創造するために、今後もチャレンジを続けます。



2013年日本ものづくり大賞優秀賞を受賞した「カボチャ乱切り装置」



北海道発のメタルブランドで 付加価値の高いものづくりを。

株式会社トリバス(札幌市) 代表取締役社長 杉本 光崇さん

●どのような会社ですか？
私たちは、1946年の創業当初から一貫して金属製品を手がけてきました。当社の金属製品は、車両部品、機械部品、建築・土木資材などの幅広い分野で使用されています。
●新事業にチャレンジしたきっかけは？
そうした従来の受注生産だけではなく、より主体的なものづくりを目指すクリエイティブな事業展開が必要だと感じ、北海道発のメタルブランドを2019年に立ち上げました。第1弾で開発したアウトドアブランドのたき火台「GURU GURU FIRE」は、当初は道内2店舗での販売でしたが、独自性とデザイン性の高さでSNSを通じて評判となり、全国で販売するようになりました。現在は台湾や香港にも販路が広がっています。



2020年北海道新技術・新製品開発賞のものづくり部門奨励賞を受賞した「GURU GURU FIRE」

コロナ禍における 価格高騰等緊急経済対策

感染症の影響や国際情勢の変化により、エネルギーや原材料などの価格・供給動向は見通せず、事業者を取り巻く経営環境などはより厳しさを増すことが懸念されるため、道では、本道経済への影響の緩和や活性化に向けた緊急経済対策を実施します。対策関連予算858億円(うち第2回定例会補正予算額224億円)

道内事業者等事業継続緊急支援金

次の2つの要件をいずれも満たす事業者に支援金を支給します。

金額	中小・小規模事業者: 10万円 個人事業主: 5万円
要件	①2021年11月以降のいずれかの月上昇が、2018年11月以降の同月比で20%以上減少 ②原材料などの単価が前年よりも増加

詳細はウェブサイトでご確認ください。

▶事業継続緊急支援金コールセンター(7月中旬以降に開設予定) TEL.011-350-6711(平日8:45~17:30)



道外人材確保緊急支援事業

道外在住の方が、宿泊や飲食など、この夏場に人手不足が深刻となる業種の道内事業者で短期就労を行う場合、就労者と事業者へ支援金などを支給します。

	就労者	道内企業
金額	最大20万円(奨励金10万円+移動費)	10万円
要件	・道外在住者 ・10日以上短期就労	左記の者を雇用する 人手不足業種

詳細はウェブサイトでご確認ください。

▶道庁産業人材課 TEL.011-251-3896



中小・小規模企業 新事業展開・販売促進支援補助金

中小・小規模企業が行う新たな取り組みを支援します。

	経営改善枠	販売促進枠
補助金額	上限100万円 下限50万円 ※デジタル技術活用の場合は上限300万円	上限30万円
要件	2022年1月以降の売上が10%以上減少または付加価値額が15%以上減少	

補助対象などの詳細は、ウェブサイトでご確認ください。

▶同補助金事務局 TEL.011-804-2385(平日9:30~17:30)



飲食店利用促進支援事業 (ほっかいどう認証店応援クーポン)

感染対策が徹底されている第三者認証店でも8月から発行します。

金額	4,000円
額面	5,000円
プレミアム率	25%

※原則、1人1回・2組まで購入可、売次第終了(利用期間2023年1月31日まで)。

▶第三者認証制度コールセンター TEL.0570-783-816(平日9:00~18:00)(クーポン専用のコールセンターを7月下旬に開設予定)



新型コロナウイルス感染症対策

※7月5日現在の情報です。

最新情報はこちら▶



「療養解除日カレンダー」をご利用ください

自宅で療養されている方の療養解除日(外出など通常の生活が可能となる日)について、専用のカレンダーを作成しました。症状の有無や発症日などを入力することにより、療養解除日の目安や考え方をご案内していますので、ご活用ください。

※札幌市、旭川市、函館市、小樽市にお住まいで詳細の確認を希望する方は、各保健所にお問い合わせください。



新型コロナウイルスワクチン4回目接種のお知らせ

4回目接種は、重症化予防を目的としています。

接種対象は、3回目のワクチン接種から5カ月が経過した
①60歳以上の方
②18歳以上で基礎疾患を有する方
その他、重症化リスクが高いと医師が認める方

使用するワクチンは、ファイザー社または武田/モデルナ社のワクチンです。接種後の副反応などについては、接種を受けた医療機関、かかりつけ医のほか、下記にご相談ください。

※接種の予約・手続きについては、お住まいの市町村にお問い合わせください。

北海道新型コロナウイルスワクチン接種相談センター

TEL.0120-306-154

受付時間 9:00~17:30(平日、土・日曜、祝日)



ワクチン接種の情報はこちら

アドベンチャートラベル・ワールドサミット(ATWS)

▶ATWS北海道実行委員会事務局 TEL.011-206-6944

2023年に北海道で開催されるATWSでは、約60カ国から800人もの関係者が参加する見込みで、商談会やメディア向け説明会に加え、参加者を対象とした体験ツアーで北海道の魅力を存分にPRする予定です。現在、日本最北の地をカヌーとサイクリングで目指すツアーやアイヌ文化を体験するツアーなど、宿泊および日帰りの体験ツアーの充実を進めています。

観光船の安全に対する取り組み

道では、道民と観光客の皆さまが安心して観光船をご利用いただけるよう、観光船事業者の安全に対する取り組みを取りまとめ、ウェブサイトでご公開しています。



▶道庁観光振興課 TEL.011-206-6596

道の子育て支援策

安心して子どもを生み育てることができるよう、さまざまな取り組みを進めています。

北海道公式子育て支援サイト「HAGUKUMU」▶



低所得の子育て世帯に給付金を支給します

物価高騰などに直面し、経済的に大きな影響を受けている子育て世帯を支援します。

対象	低所得の子育て世帯
国給付額	5万円/児童1人
道給付額	1万円/児童1人

対象となるかどうかなどの詳細については下記にお問い合わせください。



▶道庁子ども子育て支援課 TEL.011-206-6328

地域や企業で子育て応援

道では、子育て家庭を応援するため「どさんこ・子育て特典制度」の普及を進めています。この制度では、妊婦さんや小学6年生までのお子さんのいる世帯に特典カードを配布し、子どもと同伴での買い物や施設利用の際に特典カードを提示することで、協賛店舗からさまざまなサービスを受けられます。



どさんこ・子育て特典制度の協賛ステッカー

▶道庁子ども子育て支援課 TEL.011-204-5235

若い世代の意見を子育て支援に生かします

若い世代の感性や意見を子育て支援や少子化対策に反映できるようにするため、ユースプランナー制度を今年度、スタートし、6月から、道内の大学生を対象にプランナーの募集を進めています。

ユースプランナー制度では、若い世代の視点で、道の取り組みに関するアイデアや情報をSNSなどで発信していただくなどの機運づくりにも期待しています。



▶道庁子ども子育て支援課 TEL.011-204-5235

男性の育休取得を応援

道内での男性の育児休暇(育休)取得率は全国平均よりも低く、「職場で育休を取得しにくい雰囲気がある」などの理由が多く聞かれます。

道では、企業などと連携して社会全体の育休に関する理解を広め、男性が育休を取得しやすい環境づくりを進めています。以下のウェブサイトでお申し込みいただくと、男性の育休取得による企業のメリットなどを紹介する情報を、道から企業向けにご案内します。

※申し込んだ方のお名前を、道が企業に公表することはありませんのでご安心ください。



▶道庁雇用労政課 TEL.011-204-5354

里親を募集しています

子どもの成長には、家庭で過ごす時間や経験が重要ですが、さまざまな事情で自分の家族と暮らせない子どもたちがいます。そうした子どもたちを自分の家庭に迎え入れ、温かい愛情と理解で成長をサポートするが里親の役割です。

里親になるには、子どもを迎え入れるための研修を受けるなど一定要件が必要です。審査・登録後は、迎え入れた子どもの養育費などが里親に支給されます。



▶道庁子ども子育て支援課 TEL.011-204-5237

ピックアップ!

地域情報

北海道の各地域から話題をお届けします。

北海道内市町村広報紙(誌)ページへのリンク集▶



留萌市

道の駅に屋内交流・遊戯施設「ちやいるも」誕生!

道の駅のもいにて、子どもたちがのびのび遊べる空間をはじめ、地域特産品のアンテナショップやカフェもある屋内交流・遊戯施設「ちやいるも」が誕生。事前予約もできて安心です。

留萌市屋内交流・遊戯施設ちやいるも TEL.0164-56-0870



さまざまな遊具があるアクティブゾーン



蘭越町

「貝の館」に「大気・海洋交流センター」を開設!

町立貝類博物館「貝の館」に、地球環境問題を産官学で考える場として「大気・海洋交流センター」を開設。北大など全国11機関が取り組む研究内容を常設展示しています。

蘭越町貝の館 TEL.0136-56-2102



蘭越町の「貝の館」



檜山振興局

7/29~知って泊まってぐるっと檜山キャンペーンスタート!

管内の宿泊・観光施設、飲食店、フェリーなどの利用で、蝦夷アブリなど地元特産品が当たるチャンス! 檜山の情報満載&お得なクーポンつきパスポートをもって、今年の夏は檜山を旅しよう!

令和4年度ひまわり観光推進キャンペーン実行委員会事務局: 檜山振興局商工労働観光課 TEL.0139-52-6642



道南・檜山観光パスポート

